図書館のみなさまへ

「なぜオープンアクセスの話に学認が出てくるんだろう？」
と疑問を持っているみなさまに聞いていただきたい
即時OAを支える認証のおはなし

© 2024 National Institute of Informatics

セルフアーカイブの促進が即時OAの鍵

- 日本における主流：代理投稿モデル
  - 「登録コンテンツ数が少ないからこそ成り立つモデル」

- ではどうするか：セルフアーカイブモデル
  - 「研究者による論文投稿と、図書館員による確認」の分業化

船守美穂. 動向レビュー：即時オープンアクセスを巡る動向：グリーンOAを通じた即時OAと権利保持戦略を中心に. カレントアウェアネス. 2023, (358), CA2055, p. 15-23. https://current.ndl.go.jp/ca2055

JAIRO Cloudでセルフアーカイブ

【これまでの場合】

- JAIRO Cloudの認証連携システムにIDを登録
  - 定期的にIDの追加・削除を行う必要あり
- 登録者は専用のID・パスワードでログイン
  - 学認連携はオプション機能の扱い

JAIRO Cloudでセルフアーカイブ

【JAIRO Cloud改修により学認対応強化】

- JAIRO Cloudを学認経由で利用可能に
  - ID管理を一元化、図書館での追加対応不要

- 登録者は普段のID・パスワードでログイン
  - 利用者にとっても利便性が向上

学認参加のメリット

【利用者サービスの拡大に】

- GakuNin RDMの利用に必須
  - 研究データ管理サービスへの第一歩

- 電子ジャーナルやデータベースの学外利用
  - 有償電子リソースの有効活用に

- 学内システムへの活用も可能
  - LMSなどとも連携可能

学認で創る研究マネジメント環境

一連の研究プロセスをまるごと学認連携
研究支援サービスをパッケージ化して提供可能に

これから学認参加を目指す皆様に

- 何から始めればよいか分からないけれど、とにかくJAIRO Cloudだけでも学認対応したい
  - 「学認IdP Hosting実証実験」への参加をご検討ください
- 学内に技術スタッフがいないけれど、どうせなら色々なサービスを学認連携したい
  - 「学認対応IdP標準仕様書　IDaaS編」がおすすめです
- 学内に技術スタッフがいるので、ランニングコストを抑えられる構成で始めたい
  - 「学認対応IdP標準仕様書　オンプレミス編」をどうぞ
- 学内説明用の参考資料がほしい
  - 「学認参加のための学内説明用資料」をご活用ください

ご意見　ご質問をお待ちしております

こちらのお問合せフォームからご投稿ください

https://www.gakunin.jp/contact

補論

「学認のメリットは分かるけど、ほかに何か意義はないのか？」
と疑問を持っているみなさまにお伝えしたい、
Green OAだからこその「認証」の重要性について

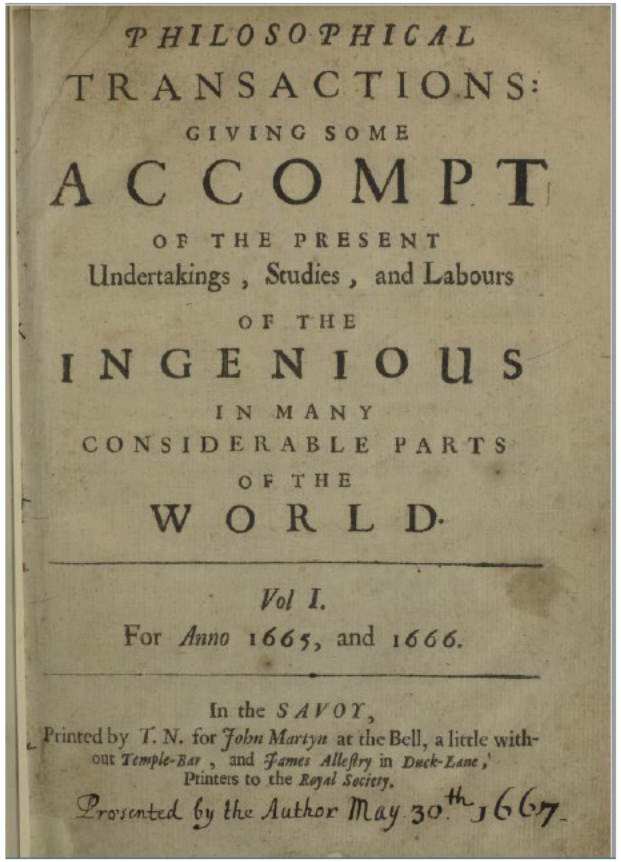
© 2024 National Institute of Informatics

まずは図書館的な視点で

- 学術雑誌の重要な機能「質保証」

- （紙媒体）
  物理的に誌面に存在することで担保

- （オンライン）
  配信元プラットフォームで担保
  書誌事項メタデータで担保
  ファイルに埋め込まれた出版社ロゴで担保


PHILOSOPHICAL
TRANSACTIONS:
GIVING SOME
ACCOMPT
OF THE PRESENT
Undertakings, Studies, and Labours
OF THE
INGENIOUS
IN MANY
CONSIDERABLE PARTS
OF THE
WORLD.

Vol I.
For Anno 1665, and 1666.

In the SAVOY,
Printed by T. N. for John Martyn at the Bell, a little without Temple-Bar, and James Allestry in Duck-Lane,
Printers to the Royal Society.
Presented by the Author May 30th 1667

では、オープンアクセスになると？

Gold OAの場合・・・

- 配信元プラットフォームで提供
- 出版者付与のメタデータ

つまり、**出版者が正統性を担保**している

Green OAの場合・・・

- 所属機関などによるプラットフォーム
- 図書館員等が付与したメタデータ

出版者の質保証を**「間接的に」信用**している

Green OA論文の質保証

- OA論文であっても、質保証の根本は出版者の査読

- 査読によって得られた質保証が、手元にダウンロードしたファイルまで継承されているかは、別問題

掲載情報を正しくメタデータに反映していること、
改ざん等なく、査読された論文と同一であること、
当該著者の身元を機関として保証できること、
　質保証を継承する上で、機関の役割はより大きく

なぜ問題なのか？

- メタデータが第三者に改ざんされてしまったら・・・
- アップロードしたファイルを第三者に改ざんされてしまったら・・・
- 機関と無関係の第三者が勝手にデータを登録してしまったら・・・
- 「誰によって」操作が行われたのか、追跡できなかったら・・・

→どれも最終的には、**「認証」の問題に行きつく**

◆ 例えば「分野別リポジトリでの掲載」や「自分のウェブサイトでの公開」においては、厳密な認証を行わずに運営されており、それなりに成功を収めていますが、それは「何かあれば著者の責任であり、信じて利用した側の責任である」という暗黙の前提があるから、と言えます。

◆ 機関リポジトリの場合、大学や機関のブランドのもとで公開されるため、何かあった場合、リポジトリを運営する機関にも、ブランド価値を低下させるリスクが生じます。

どこから手をつけるべき？

- いまこそ学認に入りましょう
- JAIRO Cloudへのログインは各機関のIdPを使うようにしましょう
- セルフアーカイブを推進しましょう

学認に入っていない場合

【想定される業務フロー】

- JAIRO Cloudのローカル認証システムを利用
- 図書館員による代理投稿

【懸念される問題点】

- 多くの場合、作業用アカウントを複数名で共用
  - アカウント情報が漏洩するリスクが高くなる
  - 誰が最終更新したのか追跡できなくなる
  - パスワードの定期的な更新が必要（実施してますか？）
- 即時OA義務化に伴う公開論文増加による業務負荷
  - 代理投稿のマンパワー不足、業務継承も課題に
- セルフアーカイブもできなくはないが
  - ローカル認証システム上のID管理（追加・棚卸）責任も

学認に入ると何ができるか

【想定される業務フロー】

- 各機関のIdPからJAIRO Cloudを利用（共用アカウントなし）
- セルフアーカイブ / 代理投稿の併用

【期待される効果】

- 業務アカウントがよりセキュアに
  - パスワードを共有する必要なし　アカウント漏洩リスク低減
  - 作業履歴の追跡が容易に
- セルフアーカイブもやりやすく
  - 代理投稿の業務負荷が（多少）軽減
  - 学内認証基盤が利用可能、ID管理も一元化
  - 異動や退職によるアカウント棚卸も的確に反映
- GakuNin RDMを利用するためのインフラにも

ということで結論

- Green OA論文の質保証は、機関がカギを握っています
- 機関が論文の信頼性を担保する基盤が、認証です
- 学認はセルフアーカイブの推進にも役立ちます
- 即時OAを実現するインフラとして、学認をご活用ください